

広報さくら

◆◆ 第117号 ◆◆ 令和6年3月1日
発行: 日本大学明誠高等学校後援会



主な内容

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| ○ごあいさつ…………… 学校長 …… 2 | ○賀詞交換会…………… 8 |
| ○1年を振り返って …… 会長 …… 3 | ○アカデミア明誠 …… 9 |
| ○後援会主催講演会…………… 3 | ○強歩大会・支援活動 …… 10 |
| ○文化祭…………… 4～6 | ○謝恩会…………… 11 |
| ○お茶処…………… 7 | ○後援会活動報告・編集後記…………… 12 |



令和5年度もあとわずかとなり1年間の活動を振り返る時期となってまいりました。この一年間でお子様はどのように成長したのでしょうか。毎日子供の様子を見ているとその変化にはなかなか気づかないものですが、ふとした言動や行動の中に「成長しているのかな?」と実感できる瞬間があるのではないのでしょうか。

私は前回の「さくら」で記述させていただきましたように、課外活動に真摯に取り組むことが、結果はどうであれ将来の自己肯定感や自己有用感に結びつくものと確信しております。そこで夏休み中には、日程の許す限りなるべく多くの部の大会や遠征、合宿などに、応援・激励に行くこととしました。野球部の甲子園予選、軽音楽部の山中湖合宿、女子バスケットボール部藤沢遠征、ダンス部全国大会地区予選、剣道部北志賀高原合宿、ラグビー部妙高高原合同練習、ハンドボール部前橋遠征、自然科学部八海山合宿、テニス部山中湖合宿、男子バレー部箱根合宿などです。猛暑の中すべての活動において真剣なまなざしで取り組む生徒たちの姿に、感動し心からエールを送ったと共に、何か言葉では言い表すことのできな

い逞しさを感じ取ることができました。そして2学期には野球部新人戦県大会、サッカー部選手権予選、自然科学部ロボット大会、ラグビー部全国大会予選の応援にも行ってまいりました。それぞれ頂点を極めることはできませんでしたが、最後までやり切ったことは高校生活の中の大きな宝となったことでしょうか。来年はもっと多くの活動の激励に参りたいと考えております。

そして11月にはこれまで規模を縮小しておりました文化祭につきまして、4年ぶりに外部のお客様をお呼びしての「コロナ前」と同規模で実施いたしました。今回の文化祭で画期的なことは、生徒からの要望によりスマートフォンの使用について制限を加えながら認めたことでもあります。当初は無秩序状態となるのではと心配される向きもありましたが、大きなトラブルはなく、生徒たちは与えられたルールの中できちんと使用することができました。これも大きな成長ではないでしょうか。毎年恒例の壁画やクラスパフォーマンス、教室展示、3年生模擬店、文化部の発表などなど。どの企画もすんなりとうまく運べたものはないのかもしれませんが。生徒同士の意見の食い違いなどに悩んだ生徒、インフルエンザというコロナに代わる脅威により準備段階で学級閉鎖に追い込まれたクラスなど。それでも何とか本番を迎え、心から楽しめた生徒の笑顔の中に、逞しさや成長の後を感じることができました。後援会のバザーや喫茶処も好評でした。ありがとうございました。協力いただいた保護者の方々も成長できたのでしょうか?

さて今年度様々な活動をしてまいりましたが、必ずしもその成長をすぐ感じることはできないこともあると思います。でも教育とはすぐに結果を求めるものではなく、今の活動が10年・20年後にその成果が表れるものであります。将来の子供たちの成長に期待して、私の年度末のご挨拶といたします。



令和5年度の会長という大役を仰せつかり、バトンを受け取った日から早一年が過ぎようとしております。皆様には日頃より後援会活動にご協力いただきまして誠にありがとうございます。

振り返ってみますと本年は長く続いたコロナ禍が明けるとともに各種行事を予定どおり実施することができ、賑わいと盛り上がり何より活気のある後援会活動を取り戻すことのできた一年間となりました。これもひとえに日頃より後援会活動にご理解とご協力を頂いております皆様の大きな支えと校長先生をはじめとする学校関係の方々の弛まぬご指導とお力添えを賜ったことによるものと心より深謝申し上げます。

まずは、この三年間を思い返してみると、3年前に我が娘の入学とともに後援会とのご縁を頂き、歴史と伝統のある後援会の仲間入りをさせていただくこととなりました。当時はコロナ禍ということで様々な制限があり、学校行事自体がままならない状況下でしたが、学年担当副会長として「できる事を・できる範囲で・できる限り」活動を進めていきました。昨年度は徐々に制限も緩和され少しずつ賑わいを取り戻しながら、かつての様な後援会活動を行うことができるようになり、今年度はコロナ禍以前のように制限なく活動することができた年となりました。

さて、この一年を改めて振り返ってみますと、6月の日本大学文理学部への訪問研修会、9月の祭典パトロールや講演会、11月の誠祭でのバザーやお茶処誠風の運営、新年を迎えての交換会、2月の強歩大会での豚汁作りなど、後援会活動を滞りなく行うことができた飛躍の年となりました。そして、コロナ禍が明けたことで後援会にとっても変革の年を迎えることとなり、後援会

役員や委員の皆様の負担軽減とコロナ禍で途切れかけてしまった後援会活動を、より親しみやすく関わりやすい、時代に見合ったものにするための重要な年となりました。また、本紙が発行される頃には最後の事業として3年間お世話になった先生方への感謝の気持ちとお礼をお伝えする「卒業謝恩会」を盛大に開催いたします。



後援会活動は生徒達と学校を後押しするサポーターとして保護者が地域や学校と連携を取り、今求められていることが何かを学ぶ場でもあります。学校に足を運ぶ機会も多く先生方や生徒たちとの距離を近くに感じ、私自身も生徒とともに成長させていただいたことは後援会の素晴らしさのおかげだと感謝しております。

さらに後援会活動を通じて様々な人と出会い、多くの人と関わりを持たせていただきました。このご縁はかけがえない財産であり私にとっての宝物です。これからもこのご縁を大切にしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

結びに後援会活動を盛り上げてくださった皆様方の取り組みと「人との関わりを大切にしたい、たくさんの人と交流を持ち親睦を深めたい」こうした私の思いに賛同していただきお付き合い頂いたことに深甚なる感謝を申し上げますとともに、生徒たちの今後の活躍と後援会の益々の発展を祈念し、一年前に受け取った伝統のバトンを次の世代に繋いでお礼の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



◎牛倉神社例大祭祭典パトロール

令和5年9月3日(日)、4日(月)に4年振りとなる祭典パトロールを行いました。牛倉神社例大祭は郡内三大祭として知られ、古くから地元上野原の地域住民に親しまれており、明誠高校の生徒も露店に立ち寄りたりしてお祭りを楽しんでいます。当日はコロナ禍前の賑わいが戻った境内や周辺を見廻り生徒の安全を守りました。

後援会主催講演会報告

研修部部会長 芹川 弘美

令和5年9月9日(土)本校多目的ホールにて、保護者対象の後援会主催講演会が実施されました。「明誠生の『人間力』を育むためにすべきこと、できること」というテーマで、日本大学文理学部教授・教職センター長の藤平敦先生を講師にお迎えしてご講演頂きました。



講演では、質問形式やクイズ、スライド等を取り入れ藤平先生のユーモアとテンポ良いお話に引き込まれ、とても時間が短く感じました。藤平先生のお話の中で、子供が学習意欲を高めるためには「非認知能力」を育

んでいくこととありました。そのためには「褒めて伸ばす」こと、家庭で話しやすい環境を作り、子供と向き合って会話することの大切さを改めて教えられました。また「人間力」を育むためには「人の役に立っている」「人から認められている」という感情を子供自身が感じ獲得する大切さ、親は子供を主とした働きかけをする「自己有用感」を育む必要性を理解し、子供の心が育つように見守っていきたいと思います。今後親として子供に何ができるのか、子供との接し方に疑問が生じた時、藤平先生のお言葉を思い出して今一度子育てを見つめ直したいと思います。

ご講演いただいた藤平先生、お忙しい中ご来校いただきありがとうございました。また当日は多くの保護者の皆様にお集まりいただき、講演会を催す事が出来ましたことに感謝いたします。来年度の講演会もご期待いただければと思います。







今年度の誠祭は前年同様、11月22日・23日に開催されました。

前日の準備ではバザー品の値付け、テントの準備、お茶処の設置、近隣商店へのポスター依頼などを汗を流しながら楽しく実施しました。また各ご家庭から寄付していただいた余剰品も1000アイテム以上のご提供いただきました。誠祭両日も多くの後援会役員、委員の皆様にお手伝いいただき、延べ総人数130名のたくさんの方々のご参加により無事に終了することが出来ました。お疲れ様でした。

晩秋の開催でしたが、2日間ともに最高の晴天に恵まれ、大勢の保護者の皆様や地元上野原の方々にお越しいただきバザー品は大盛況でした。特に4年ぶりに外部の受け入れを実施しての誠祭となりましたので、地元の方からは「待ち侘びていたよ」との声をたくさんの方からいただき、地元で愛された高校であることを改めて実感し、日ごろ生徒たちの通っている通学路の治安環境を守っている上野原の方々へ感謝の気持ちとしてお伝え出来たのではないかと考えております。

お茶処【誠風】でも、4年ぶりに【100円飲み放題】が復活し、生徒の皆さんがジュースを何

杯もおかわりする姿が印象的で管理棟のソファは常に満席でにぎわいを見せておりました。がその一方で飲み物が足りなくなるのではないかと心配も覚えました(笑)



2日間ともに人の絶えることがなく、バザーやお茶処に立ち寄っていただいた保護者の皆様、地元の皆様、OBの皆様にご心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

売り上げに関しましては、2月に開催した恒例行事【強歩大会】でのおにぎりや豚汁の費用として生徒の皆様へ還元させていただきました。

最後に、短い募集期間にもかかわらず、たくさんの方のバザー用品の提供にご協力いただきました保護者の皆様、後援会、野球部・サッカー部の保護者会、後援会OB、教職員の皆様この場をお借りして御礼を申し上げます。



賀詞交換会

新年を迎えた1月13日(土)に校長先生をはじめ教職員の方々と後援会役員の皆様の参加による賀詞交換会を京王プラザホテル八王子にて開催しました。普段とは違った雰囲気の中で親睦を深め、先生方の生徒たちに対する指導方針

や考え方を享受することができ、保護者と先生方が忌憚のない意見を交わすことができた有意義な催しとなりました。そして、学年を超えた後援会の繋がりと結束を強固にする新年の始まりに相応しい時間を送ることができました。



アカデミア明誠



2月24日(土)立春を過ぎ時候は雨水、暦の上では春ですが、体感としてはまだまだ肌寒い頃、盛大に強歩大会が開催されました。今年も後援会活動として、1000人分の豚汁作りと安全確保のためのコース誘導を行いました。当日は天候にも恵まれ、スタート時の生徒達の表情も晴れ晴れとして印象的でした。力走して1時間もせずに帰ってきた生徒達に声をかけ、豚汁やおにぎりを頬張る姿を見た時、初めて達成感が湧いてきました。11月の実行委員会立ち上げ当初は、1000人分の豚汁を作り上げるイメージがわからず不安な気持ちでいっぱいだった事を思い出

すと共に、子ども達の学校生活のひと場面を垣間見れる喜びを感じました。昨年経験された2学年の方々から沢山アドバイスをいただき、限られた時間の中でリーダー達と話し合い情報共有し、何とかスムーズに出来るよう考えてきた事も、良い思い出となりました。最後に、大会支援に協力していただいた役員、委員、部活の保護者の方々、そして運営にご尽力して下さった先生方に、厚く御礼申し上げます。今後も後援会活動にご理解ご協力いただきますよう、宜しくお願いいたします。



謝恩会を振り返って

謝恩会実行委員長 小泉 和章

3月2日(土)春の訪れが感じられる佳き日、卒業証書授与式の終了後、京王プラザホテル八王子にて謝恩会を無事に行うことができました。お世話になった先生方へ感謝の気持ちを伝えたいとの思いで謝恩会実行委員会として準備をしてきました。

当日は、クラスの保護者同士で話も弾み、先生方のお話は笑いあり涙ありで楽しい時間はあっという間でした。また、3学年生徒会にも協力を

頂き先生方へ、クラス毎のメッセージ動画を作成し上映する事ができました。

多感な時期の生徒一人一人を大切にしてください先生方ありがとうございました。3年生保護者の皆様3年間ありがとうございました。お手伝いをしてくださった後援会役員の皆様ありがとうございました。

後援会活動最後のイベントとして、最高の思い出を作れた素敵な謝恩会となりました。



令和5年度 後援会活動報告



◆編集後記◆

今年度も皆様方のご協力により「広報さくら」を発行することができました。

発行にあたり、お忙しい中原稿をお寄せくださいました松井校長先生、後援会役員の皆様、心よりお礼を申し上げます。

11月に開催された誠祭は4年ぶりに一般の方も入場することができ、大盛況の中で終了しました。また、新校舎も完成し、誠祭のシンボルである、巨大壁画も今年度限りとなります。

広報「さくら」を通して、生徒一人ひとりの輝きを皆様と共有し、学校生活を紙面から感じとっていただけたら幸いです。

一年間ありがとうございました。

